

日本海洋政策学会 課題研究成果報告<要約>

2020年4月1日

課題研究 No. H29-1

<p>研究テーマ</p>	<p>我が国の海洋資源の確保と海上輸送の安定を目的とした海洋の法秩序の形成 一法、環境、安全輸送、国際基準の視点からの統合的基盤構築一</p>
<p>研究目的</p>	<p>本研究の目的は、我が国の海洋資源の確保と海上輸送の安定のための海洋法秩序の形成に必要な基礎研究を行うことにある。 具体的な目的は、第一に海洋資源の開発・利用と海上資源輸送の安定に必要な海洋紛争解決、海洋資源開発と海上輸送における環境規制・安全管理・国際的統一技術基準の遵守、エネルギー資源の開発・利用に関する投資紛争解決等の国家間、国家と開発事業者・輸送事業者間、国家と国際機関の間の法過程の分析により、海洋資源の開発・利用と海上輸送をめぐる紛争原因と法・政策的課題を把握する。第二に海洋資源開発と海上輸送のチョークポイントとなる紛争原因と課題を解決する法・政策的方法を検討する。第三に海洋紛争・貿易紛争解決、環境規制、安全輸送、国際基準等の法・政策的な紛争解決方法が、海洋法秩序全体において果たす機能を整序する作業により、日本の資源確保と安定輸送に必要な海洋法秩序の形成に有益な施策を示す。【計画書より抜粋】</p>
<p>研究期間</p>	<p>2017年10月～2019年9月</p>
<p>ファシリテータ</p>	<p>大河内 美香（東京海洋大学）</p>
<p>共同研究者名 （所属名）</p>	<p>阿部克則（学習院大学法学部） 岡松暁子（法政大学人間環境学部） 中村秀之（日本海事センター企画研究部） 森本清二郎（日本海事センター企画研究部）</p>

<p>WG, 委員会等 会議開催年月日</p>	<p>第1回 2017年11月9日(木) 1300~1500 開催場所 日本海事センター会議室 研究報告会 「大陸棚境界画定紛争解決における共同資源開発協定と裁判の位相」</p> <p>第2回 2018年3月2日(金) 1230~1330 開催場所 日本海事センター会議室 研究報告会 ① 「外国船舶に対する寄港国管轄権の法的限界」及び ② 「核燃料海上輸送と無害通航権—権利義務内容の変化に着目して」</p> <p>第3回 2018年4月6日(金) 1100~1200 「特別研究会詳細打ち合わせ」</p> <p>第4回 2018年5月(1200~1400) 「特別研究会に関する参加者からの事後の問合せその他への対応の検討・協議、研究計画の進捗、検討等」</p> <p>その他 研究発表、資料についてメール審議、ならびに年次大会、特別研究会にて研究進捗状況の報告、進捗打合せ等の実施。</p>
<p>研究成果概要</p>	<p>学会に提出した研究計画に沿って、研究成果を以下説明します。 研究計画資源開発輸送工程における法・政策的課題と利害関係国・関係者間の紛争は、開発工程において①境界画定紛争→②海域の開発・利用の国内法規制と開発事業者との投資紛争→③開発時の環境規制→④海上資源輸送に伴う油濁リスク→⑤開発と輸送における寄港国・沿岸国・旗国管轄権と国際機関の技術基準→⑥通過権と資源輸出入規制による貿易紛争→⑦紛争解決の必要性へと変化する。本研究は、上記の海洋開発と海上輸送の工程にそって、海洋境界画定紛争解決による海域の安定、資源開発・投資紛争解決による開発の実現、掘削等の開発・輸送時の環境規制、危険物安全輸送による油濁防止と海上物流の確保、国際機関の技術基準等に従う国内実施、貿易紛争解決による最終的資源取得までを、海洋の開発と利用に関する法秩序全体として捉え横断的に考察する。中央アジア等の陸域から海上までの資源輸送、北極海航路の利用も含む。【研究計画書より抜粋】</p> <p>以上の計画に沿う成果は以下のとおりです。</p> <p>1 海洋政策学会研究発表 「大陸棚境界画定紛争解決における共同資源開発協定と裁判の位相—東チモール・オーストラリア境界画定紛争を中心に—」(大河内)</p> <p>2 海洋政策学会誌第8号 上記発表に基づく論文「大陸棚境界画定紛争の解決における資源開発権の意義」(大河内)</p> <p>3 海洋政策学会研究発表 「外国船舶に対する寄港国管轄権の法的限界—外航海運における地域規制の問題を中心に—」(森本)</p>

	<p>4 海洋政策学会年次大会 ポスター発表「境界画定紛争解決における平和パイプラインとエネルギー通過計画の意義—北極圏・サベッタ港から、カスピ海、アフガニスタン、パキスタン・グワダル港まで—」(大河内)</p> <p>5 上記ポスター発表に基づく Briefing Paper 「Energy Transit Schemes and Conflict Resolution—Afghan Border Areas」 European Institute for Asian Studies/EIAS, Briefing Paper No. 2/2020. (Okochi)</p> <p>6 上記ポスター発表に基づく Op-Ed 「Review of Peace Pipelines: Safe Logistics of the TAPI Pipeline」 European Institute for Asian Studies/EIAS. (Okochi)</p> <p>7 海上危険物輸送と通航権の整理について、海事交通研究 66 集 「核燃料海上輸送の安全管理と無害通航権—技術基準と権利義務内容の変化—」(大河内)</p> <p>8 海洋資源開発と海上輸送の安全管理について、日本海洋政策学会誌に投稿予定 「Sustainable Offshore Resource Exploitation – Safety Management Systems for Maritime Transport of Oil and Gas—」</p> <p>9 カスピ海、北極海等の資源輸送にかかる国際法、外国法制（ロシア法）の現状調査と課題の整理について、海事交通研究 69 集に投稿申請済（3月30日執筆申請許可） 「北極海等の新規航路への我が国海運・海事産業の参入と障壁の克服にむけて—国際法及び現地法規制からみた課題の検討」(大河内)</p> <p>10 上記ポスター発表に関連する Policy Brief 「The Northern Sea Route-International Law and Russian Regulations」 European Institute for Asian Studies/EIAS. Briefing Paper Series, No. 04/2020 (Okochi)</p>
<p>セミナー、年次大会 等 成果発表実績（予定）</p>	<p>第9回年次大会 2017年12月2日（土） 開催場所 東京大学 小柴ホール 研究発表 「大陸棚境界画定紛争解決における共同資源開発協定と裁判の位相—東チモール・オーストラリア境界画定紛争を中心に—」</p> <p>第1回特別研究会 2018年4月16日（月）1400～1600 開催場所 笹川平和財団ビル A・B 会議室 「高度 20,000 キロから、大水深 2,000 メートルの掘削を、12,000 キロの海上輸送を、1,000 港湾の物流を守る、全地球測位衛星システム—GNSS 最新動向、日本の準天頂衛星、DPS」 講師 久保信明准教授、檜野武憲様（川崎重工業）</p> <p>第10回年次大会 2018年12月7日（金） 開催場所 笹川平和財団ビル 国際会議場 研究発表</p>

	「外国船舶に対する寄港国管轄権の法的限界—外航海運における地域規制の問題を中心に—」（森本清二郎） ポスター発表「境界画定紛争解決における平和パイプラインとエネルギー通過計画の意義—北極圏・サベッタ港から、カスピ海、アフガニスタン、パキスタン・グワダル港まで—」
研究補助費用 (学会記入)	163,694 円
購入書籍等 (保管者名)	* 下表の購入資料一覧表参照
備 考	

	書 籍 名 (+出版社)	保管担当者
1	加藤雅信 『「所有権」の誕生』 三省堂	大河内
2	原田慶吉 『ローマ法』 有斐閣全書	大河内
3	兼子一 『実体法と訴訟法』 藍青堂書林	大河内
4	Bowett' s Law of International Institutions (Author: Philippe Sands and Pierre Klein) Sweet & Maxwell	大河内
5	The Sources of International Law (Author: Hugh Thirlway) Oxford University Press	大河内
6	『国際法における危険責任主義』 東京大学出版会	大河内
7	『インテルサット恒久協定の研究』 国際電信電話	大河内
8	英文条約集	岡松
9	国際海峡 東信堂	大河内
10	21世紀の国際法と海洋法の課題 東信堂	大河内
11	Saving the Ocean through Law	岡松
12	『宇宙通信の国際法』 高陽堂	大河内